

# 病床稼働率向上を目指したベッドコントロールの取り組み

大石としみ

静岡赤十字病院 看護部

**要旨**：2020年はCOVID-19の影響を受け患者数が減少，加えてコロナ病棟を開設することになり，病床稼働率の低下と入院可能な病床数の減少により病院経営に大きなダメージが予測された。病床管理室では，病床管理の一元化を図り，病床稼働率90%以上を目標に，効率的・効果的な病床管理に取り組んだ。病床管理に必要な情報の可視化を図り，情報共有できたこと，「医師は退院許可を指示し，病棟師長が退院日を決定する」運用の定着を行った結果，目標の稼働率を上げることが出来た。その取り組みを報告する。

**Key words**：ベッドコントロール 病床稼働率 病床管理室

## I. はじめに

病床管理室は，入退院センター隣にあり，実働2名体制である。業務内容として，病床稼働率90%以上を目標に効率的で効果的なベッドコントロールを行っている。現在，病床管理の一元化を図り，電子カルテ内に空床情報と病床利用予定が可視化される空床管理マップを導入しているが，稼働率の目標達成・維持は出来ていなかった。そのような現状の中で，2020年はCOVID-19の影響を受け患者数が減少，加えてコロナ病棟を開設することになり，稼働率の低下と入院可能な病床数の減少により病院経営に大きなダメージが予測された。

稼働465床の内コロナ病床に36床が当てられ，これまで以上に限られた病床数でのベッドコントロールを行うために，診療科の枠を超えたベッドコントロールを促進する取り組みをした結果，稼

働率を上げることが出来た。その取り組みを振り返り報告する。

## II. 目的

病床稼働率向上を目指したベッドコントロールの取り組みを振り返る。

## III. 活動内容

### 1 院内全体への情報発信と情報共有

COVID-19の影響による病院経営の危機感のもと，院長より病院職員全員に当院の方針と目標が伝えられた。そして，これまで限られた部門で管理していた日々の稼働率等の情報を，職員全員で共有し関心もてるように，電子カルテのトップページへ「稼働統計情報」(図1)として提示するようになった。



図1 電子カルテのトップページの「稼働統計情報」の画面

また、患者診療を“断らない病院”であり続けるために市内二次救急当番病院にあたる日を電子カルテ上に明示し、空床確保が必要になる日を意識づけられるようにした。

2. リアルタイムな病床状況の情報発信と協力要請

病床管理室の毎日の業務としては、毎朝入院状況を電子カルテ上で確認し、予約入院と予測される緊急入院を考え、空床状況をアセスメントしている。そして、その状況を病床管理室長の副院長と看護副部長に報告・相談をし、看護師長のモーニングカンファレンスで情報発信している。

また入退院の決定権を持つ医師と看護師長の

更なる協力を得るために、空床状況のひっ迫度によって、副院長名で全医師と全看護師長に院内緊急通知メールを活用した情報発信を追加した(図2)。具体的には、当日と翌日の空床不足は高緊急である赤い表示、翌日から1週間先の空床不足は中等度緊急である黄色い表示、空床(一般病棟20床以下)はあるが、男女のバランスが悪く緊急入院の調整が難しいと予測される場合は低緊急の青い表示とした。また、ベッドコントロールに影響する新たな予約入院発生時は、病床管理室への報告を義務付け再調整した。更に、看護師長に対しては、より詳細な空床状況を伝え、個別の調整を行った。

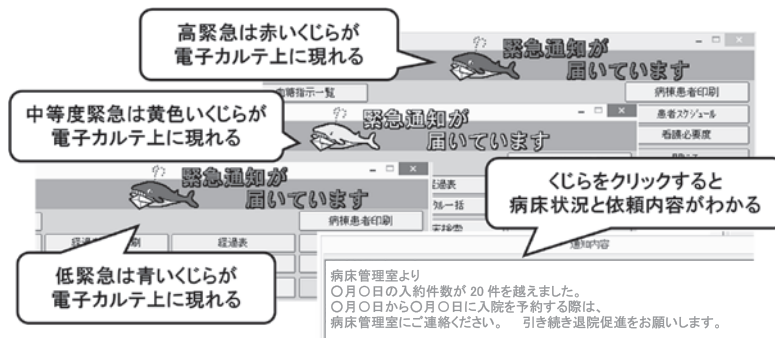


図2 緊急通知メール

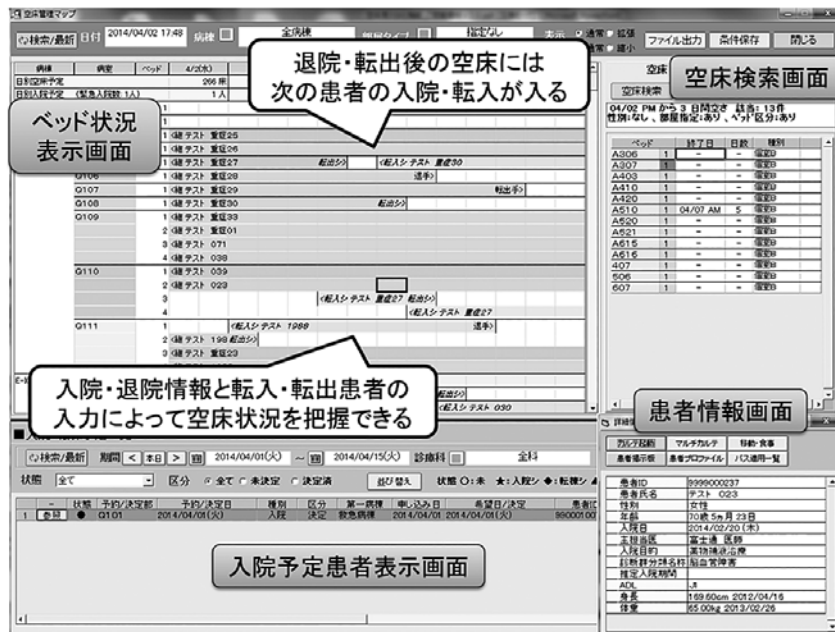


図3 電子カルテ：空床管理マップの画面

### 3. 「医師は退院許可を指示し、病棟師長が退院日を決定する」運用の定着

これまで「医師は退院許可を指示し、病棟師長が退院日を決定する」という運用方針がスムーズに実行されるように、医師や看護師長に働きかけをしてきたが、なかなか効果が上がらなかった。そこで、再度これらの運用が定着するように医師と看護師長への働きかけを行った。

方法としては副院長から医師に向けての働きかけをしてもらうとともに、病床管理室の看護師長が各診療科のカンファレンスに出向き、医師との関係作りも兼ねて、診療部長だけでなくすべての医師に直接説明を行った。また、看護師長全員を対象に、病床管理室の役割と業務内容、またベッドコントロール上の課題を知ってもらうことを目的に、病床管理室でのベッドコントロール実習を行った。その際、空床管理マップ（図3）へのリアルタイムの入力の重要性も伝えた。

## IV. 結果・考察

院長より病院職員全体に当院の方針と目標が伝えられた結果、病床管理に対する院内全体の関心が高まり、入退院の決定権のある医師と看護師長へのタイムリーな情報発信により、協力意識が高まり協働が図られるようになった。その結果、病床稼働率は、平均79.9%（2020年4月から7月）から91.6%（2020年8月から2021年2月）と上昇した。診療科の枠を超えた入院受け入れも増え、担当診療科以外の一般病棟への入院割合が、2020年前期の9.8%から後期には20.5%に増加した。

入退院の決定権のある医師と看護師長が、病院の方針、病床管理状況を共有することが重要で、タイムリーに情報を可視化し、共有化しやすくしたことが、効率的・効果的な病床管理に結び付いた。

また、「医師は退院許可を指示し、病棟師長が退院日を決定する」運用が定着し、病棟師長が総合的に判断し退院日を決定することで在院日数のコントロールにつながり、毎月の稼働が以前に比べ比較的安定した。そして、空床管理マップへのタイムリーな入力で、病床利用予定の可視化と共有がすすみ、計画性のあるベッドコントロールに役立てることが出来、効率的・効果的な病床管理につながった。

情報の可視化と病床管理におけるルールが定着した結果、病床稼働率の向上に結びつくことができた。

## V. おわりに

COVID-19は病床管理において大きな危機であったが、危機が追い風となり、情報の可視化と共有化で医師と看護師の協働が強化され、ルールの定着が進んだ。このプラスの変化を継続し、今後も病床稼働率の向上と維持に努めていきたい。

## 文献

- 1) 塩入久美子, 星野美代子, 池田道子ほか. 効率的な病床管理を目指した師長会での取り組み. 日赤医 2017; 68: 284-8.
- 2) 松井健一, 芝田里花, 山下幸考ほか. 病床管理調整室の取組について バリアフリーの推進. 日赤医 2019; 71: 166.

---

連絡先：大石としみ；静岡赤十字病院 看護部

〒420-0853 静岡市葵区追手町8-2 TEL(054)254-4311